7 バス路線再編・運行効率化検討支援事業 ｜ 千葉市

プロジェクト概要

市内バスネットワークは全市的に網羅され、かつ運行本数も多いことから、運転手不足は市内全域で大幅な減便を引き起こしかねない。今後、職員や運転手を確保する取組みの検討のほか、バス情報のGTFS化など交通DXを推進し、業務効率化や省人化を図るとともに、路線バスの維持確保を図るためバス情報のデータ分析などを実施する。

課題

- 慢性的な運転手不足の改善が見られず、今後もバス減便などにより市民生活への影響が危惧されている。⇒運転手1人減で約50便/日減(本市調査による)
- 高齢化の進展などにより、市民の移動ニーズと交通サービス水準が異なることなどが、データ化され可視化されていないため、各交通事業者が把握できていない。
- 持続性のあるネットワークの維持のため、路線バスのほか、鉄軌道やタクシー、郊外部のデマンド型タクシーやコミバスなど各事業者の連携・協力が必要。

取組内容

- 市内バス事業者が、運行企画、運行管理などを提供するシステムのオープンソースソフトウェアを導入または活用し、本市が提供した路線バスの維持・確保に向けた再編案を基に自社で効果検証し、実施可能な運行計画案の策定を実施する。なお、事業者は市に運行計画案を提示し、持続可能なバスネットワークの形成を図るため、本市のバスネットワークに与える影響を確認する。また、事業者は導入した届出申請書類作成支援を活用することで業務効率化を図る。
- バス事業者は、乗降実績データを管理するシステムの出力インターフェースを標準的なインターフェースに改修し、標準化したデータで分析を行う。
  →市と事業者が協力し、標準化したデータを基に、現在の交通需要と提供可能なサービス水準の差異を確認する。
  →5年後(短期)や10年、20年後(中長期)の将来交通需要に対し、提供できるサービス水準を可視化し、差異が生じた場合は路線再編など効率的な運行や支援策を検討する。

事業要件

- 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上(標準化)

技術要件

- コミュニティバス運行支援キット
- 乗降実績データ標準仕様書(鉄道・バス)

効果

- 事業者が実施可能な計画案を自ら検討し、効率的な運行により路線の持続性が高まる
- システム導入は業務効率化やコスト縮減がなされ処遇改善につながるほか、自社でも利用者数などに基づき計画作成や検討が容易となり、経営戦略の強化につながる。
- これらの取組が進むことでより効果的な支援策の検討につなげたい。

事業実施自治体・エリア

千葉市、隣接市(四街道市、八街市、大網白里市など)

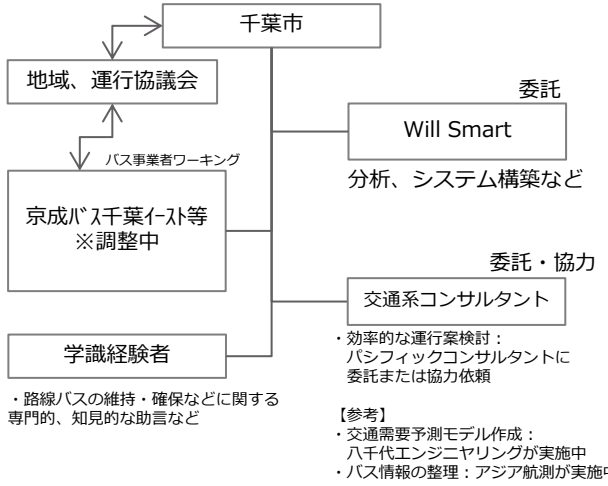
交通事業者

バス:京成バス千葉イースト
小湊鉄道、平和交通、あすか交通(左記三社は調整中)

アプリ・システム等

- ■ モデル使用データ:H30PT、交通センサス、交通系ICカードデータ(ODデータ)、沿線施設立地状況など
- ■ 活用方法: バス情報のGTFS化、交通需要予測に基づく路線バスの最適化に向けた分析など

座組



スケジュール

4月～ 市内バス事業者(7社)との協議、調整 (バス事業者ワーキンググループの開催など)
6月～ システム導入調査(事業者)
※交通需要予測の共有
9月～12月 システム導入(事業者)
12月～ 運行計画作成や分析(市・事業者)
1月 バス事業者ワーキンググループ開催
2月 効果測定、まとめ

Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.